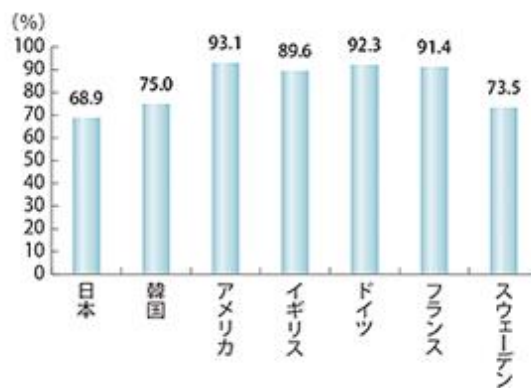
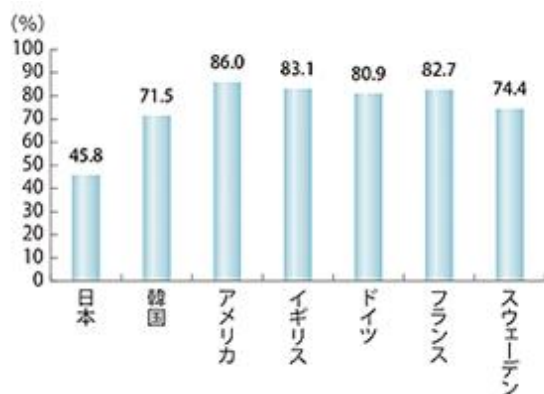


## 効力感を高める授業づくり

松井 大樹

<日本の子どもの自己肯定感>



Q. 自分自身に満足している

Q. 自分には長所がある

(出典：内閣府 平成26年版 子ども・若者白書)

<効力感を高めるためには>

効力感とは、自分が努力すれば、環境や自分自身に好ましい変化を生じさせうという見通しや自信を持ち、しかも生き生きと環境に働きかけ、充実した生活を送っている状態。

ではその効力感をどのようにしたら高めていけるのか。

→ ①応答により無力感を防ぐ

まずは、効力感と逆の意味を持つ無力感を子どもが持たないようにする。そのためには子どもの行動に対して子どもが期待している仕方で反応を返すことが重要になる(行動を肯定する)。ただし、応答は丁寧すぎてもいけない。

②子どもたちどうしの教えあい

それぞれの子どもの得意分野で先生役になり、教えることで相手が喜んだり、自分のした忠告で相手もできるようになったという経験をしたりすることで効力感を大きく伸ばすことができる。

③仮説実験授業

算数や理科の授業で取り入れやすい方法で、教師は仮説を提示した後に司会役になり、とにかく子どもは思ったことを発言していく。次第に論理的な考え方ができるようになり、意見を言い合うことで効力感が生まれる。

(参考文献：『無気力の心理学』)

→ 他にも多くの手法があるはずなのでそれらを見つけていくとともに、他に似たような言葉が多い自己肯定感という言葉の定義を行っていきたい。